

ティーチング・ポートフォリオ

人間総合科学大学

大学名	人間総合科学大学
所属	人間科学部・心身健康科学科
名前	熊谷 勝義
作成日	2026年4月30日

教育活動の振り返りと今後の改善に向けて

1. 責務（何を行っているか、何を果たしているか）

私は、人間総合科学大学において、学部教育および大学院教育に携わり、生命科学、遺伝学、老化・寿命の科学、心身健康科学に関する教育を担当している。学部教育では、初年次学生が生命現象を科学的に理解するための基礎力を身につけられるよう、細胞、遺伝子、代謝、消化吸収、免疫、老化などの内容を、健康、栄養、食、生活習慣と結びつけながら教授している。

大学院教育では、心身健康科学専攻の学生に対して、人間の健康をこころとからだの両面から総合的に捉える視点を育てるとともに、研究課題の設定、文献検討、研究方法の整理、結果の解釈、論文・報告書作成に関する指導を行っている。特に、学生一人ひとりの実践経験や問題意識を尊重し、それを学術的な問いとして整える過程を重視している。

また、通信制教育・対面教育の双方において、動画教材、確認テスト、評価テスト、課題レポート、フォーラムでのディスカッションなどを組み合わせ、学生が自ら学び、考え、他者と議論する機会を確保することを責務としている。単なる知識伝達にとどまらず、生命科学を通して人間理解を深め、健康といのちを科学的に考える姿勢を育てることが、私の教育上の中心的役割である。

主な担当科目

区分	担当内容
共通・基礎教育	ヒューマンI（N）、ヒューマン－人間のこころとからだ（N）
生命科学・遺伝学	生命と遺伝子（N）、生命と遺伝子（T）、いのちの科学（N）、いのちの科学（T）、遺伝のしくみといのち（N）、遺伝のしくみといのち（T）、生命科学（N）
老化・寿命	老化・寿命の科学（T）～人はどうして老いるのか、老化と寿命のしくみ（T）
演習・研究指導	総合演習（理解I・II、探求I・II）、大学院における研究指導・論文作成支援

2. 理念（教育に対する考え方）

私の教育理念は、「生命のしくみを理解することを通して、人間を総合的に理解し、健康を科学的に考える力を育てる」ことである。生命科学は、細胞や遺伝子などのミクロな世界を扱う学問であるが、その知識は、食事、睡眠、運動、老化、病気、こころの状態、社会生活といった日常の健康課題と深く結びついている。したがって、生命科学を専門知識として孤立させるのではなく、人間の生活や心身の健康を考えるための基盤として位置づけることが重要である。

学部教育では、学生が専門用語を暗記するだけで終わらないよう、「なぜそうなるのか」を考える姿勢を育てたいと考えている。例えば、食べたものが体内でどのように分解され、エネルギーや

身体材料として利用されるのか、老化はなぜ起こるのか、遺伝子は健康や疾患にどのように関わるのかといった問いを通して、生命現象を自分自身の生活と結びつけて理解できるようにする。

大学院教育では、学生が自らの関心を研究課題へと高めていく過程を重視している。研究は、経験や直感だけでは成立しない。先行研究を丁寧に読み、明らかになっていることと未解明の点を区別し、研究目的と方法を論理的に結びつけ、得られた結果を慎重に解釈する力が必要である。心身健康科学の学びは、人間の健康を身体・心理・行動・環境・社会の相互関係として捉える点に特徴がある。学生には、この多面的な視点を土台として、実践現場や社会に還元できる研究力を身につけてほしいと考えている。

教育において最も大切にしているのは、学生が「わかったつもり」ではなく、自分の言葉で説明し、自分の問いとして考え直せるようになることである。そのために、正確な知識、論理的な考え方、他者との対話、文章による表現を統合した教育を実践していく。

3. 方法（教育方法において大切にしていること）

教育方法においては、第一に、難しい内容を身近な問いに置き換えることを大切にしている。生命科学や遺伝学は、細胞、遺伝子、代謝、酵素、免疫、老化など専門用語が多く、初学者には抽象的に感じられやすい。そのため授業では、「なぜ食事が健康につながるのか」「なぜ栄養不足や過剰摂取がからだに影響するのか」「人はなぜ老いるのか」「遺伝子は私たちのからだや生き方どのように関わるのか」といった問いから導入し、学生が自分自身の生活や将来の専門職と関連づけて理解できるよう工夫している。

第二に、視覚的な理解を重視している。図解、模式図、インフォグラフィック、具体例を活用し、言葉だけでは理解しにくい生命現象を構造的に示すよう努めている。特に、消化吸収、エネルギー代謝、DNAと遺伝子、老化のしくみなどは、流れや関係性を図で示すことで理解が深まりやすい。動画教材やスライド作成においても、学生が一目で重要点を把握できるよう、情報量、視線の流れ、用語の難易度に配慮している。

第三に、一方向の講義に終わらせず、問いかけとディスカッションを取り入れることを重視している。知識を受け取るだけでなく、他者の意見に触れ、自分の考えを言語化し、根拠をもって説明する経験は、大学での学びに不可欠である。課題レポートやフォーラムでは、単なる感想ではなく、「どの点に着目したのか」「なぜそう考えるのか」「どのような根拠があるのか」を意識して書くよう促している。

第四に、学生の理解度に応じた段階的な支援を行っている。基礎的な知識の確認、重要概念の整理、身近な例への接続、発展的な考察という順序を意識し、学生が無理なく理解を深められるよう授業を構成している。大学院の研究指導では、研究テーマの絞り込み、先行研究の読み方、研究目的の明確化、方法の妥当性、文章構成、発表資料の作成までを段階的に支援し、学生自身が研究を主体的に進められるように導いている。

第五に、学生からの反応を授業改善に結びつけている。授業評価、質問、レポート内容、ディスカッションの状況を確認し、理解しにくい点や説明が不足している点を見直す。特に、生命科学を専門としない学生にも伝わる表現を用いること、専門性を保ちながらも平易な説明に置き換えることを継続的に改善している。

4. 成果（学生からの評価に対して、学生の学修成果について）

学生からの授業評価や意見は、教育改善のための重要な手がかりであると考えている。生命科学、遺伝学、老化・寿命の科学は、学生にとって関心を持ちやすい一方で、専門用語や概念のつながりが難しく感じられやすい分野でもある。そのため、学生がどこで理解しにくさを感じているのかを丁寧に受け止め、説明方法、教材、課題設定の改善に生かすよう努めている。

学部教育における成果としては、学生が細胞、遺伝子、代謝、消化吸収、老化、免疫などの基礎概念を、健康や生活習慣と関連づけて説明できるようになることを重視している。特に、健康栄養学科やヘルスフードサイエンス学科の学生にとって、生物学・生命科学は、栄養、食品、疾病予防、健康支援を理解するための基盤である。授業では、食と健康の関係を生命科学の視点から考えることにより、将来の専門的学修へ接続できる基礎力の形成を目指している。

大学院教育における成果としては、学生が自分の関心や実践経験を研究課題として整理し、先行研究に基づいて論理的に考察できるようになることを重視している。研究指導では、研究テーマを広げすぎず、問いを明確にし、方法と結果、考察を一貫させることを繰り返し確認している。これにより、学生が研究の全体像を把握し、自分の言葉で説明する力を高めることを目指している。

また、フォーラムや演習におけるディスカッションは、学生の学修成果を把握する重要な機会である。他者のレポートを読み、自分の意見を述べる過程で、学生は知識を確認するだけでなく、論点を整理し、根拠をもって考える姿勢を身につけていく。教員としては、学生の発言や文章に対して、考察を深める問いかけや論理の整理を行い、学生が次の学びへ進めるよう支援している。

今後も学生の声を真摯に受け止め、授業評価や課題の結果を踏まえながら、よりわかりやすく、主体的な学びにつながる授業づくりを継続していく。

5. 目標（教育活動の中短期目標と達成時期）

今後の教育活動においては、生命科学を基盤としながら、心身健康科学、栄養、食品、老化、健康支援へと接続する教育内容をさらに整備していく。特に、学生が「自分の生活や将来の専門職と関係のある学問」として生命科学を理解できるよう、教材、課題、ディスカッション、研究指導を継続的に改善する。

中短期目標

時期	目標内容
短期目標 2026年度内	生命科学・遺伝学・老化関連科目の教材を見直し、図解、具体例、確認問題を充実させる。特に、健康栄養学科およびヘルスフードサイエンス学科の学生が、食と健康を生命科学の視点から理解できる教材へ改善する。
短期目標 2026年度内	フォーラム課題やレポート課題において、学生が単なる感想ではなく、根拠をもって意見を述べられるよう、設問文、評価観点、教員コメントの質を高める。
中期目標 2027年度末まで	「こころとからだ」「生命と遺伝子」「老化と寿命」「食と健康」を横断的に結びつける教材群を整備し、複数科目間で一貫した学修の流れを形成する。
中期目標 2027年度末まで	大学院生の研究指導において、研究テーマ設定、文献検討、研究計画、データ解釈、論文作成を段階的に支援する指導資料を整備する。
中長期目標 2028年度以降	心身健康科学の視点から生命科学教育を発展させ、学生が健康課題を多面的に考え、社会や実践現場に還元できる教育モデルを構築する。

【添付資料】

本ポートフォリオの記載内容を客観的に示す資料として、以下を必要に応じて確認できるよう整理する。

- ・各担当科目のシラバス（ヒューマンI、ヒューマン-人間のこころとからだ、生命と遺伝子、いのちの科学、遺伝のしくみといのち、生命科学、老化・寿命の科学、老化と寿命のしくみ、総合演習等）
- ・講義スライド、動画授業用ナレーション原稿、配布資料、確認テスト、評価テスト等の開発教材
- ・フォーラム課題、レポート課題、ディスカッション課題、学生へのコメント例
- ・学生授業評価アンケート、学生からの質問・意見を踏まえた授業改善記録
- ・大学院生への研究指導記録、研究計画書・要旨・発表スライド・論文原稿への指導コメント例
- ・教育活動報告書、FD活動記録、入試問題作成・演習運営等に関する記録
- ・研究・教育活動と関連する主要業績、学会・査読活動等の記録

おわりに

本ポートフォリオは、これまでの教育活動を整理するとともに、今後の授業改善と研究指導の方向性を明確にするために作成したものである。生命科学を基盤とした教育は、学生が健康といのちを科学的に理解するための出発点である。今後も、学生の理解と成長に寄り添いながら、心身健康科学の視点を生かした教育実践を継続的に発展させていく。